

令和3年度 学校経営報告（概要）

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

友達や教員とかかわりながら学校生活を送る中で、学習すること、係や当番などの活動をする事、行事に参加すること、友達と遊ぶこと等々において、全児童が「学校が楽しい！」と思えることを意図して教育活動を行った。そのために以下の3点を大きな柱とした。

- ①褒めて認めて価値付ける。
- ②ゴールイメージをもって指導する。
- ③当たり前なことを当たり前に行えるようにする。

全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、自己肯定感や社会の中で役立つことについての意識は、東京都や全国平均よりも高かったが、全児童及び保護者対象の学校評価アンケートでは、昨年度と大きな違いはなかった。教員対象の学校評価アンケートでは、それぞれの数値が良くなっているなど、これらのことについて指導して伸ばしていこうとする教員の意識も高まっているので、児童や保護者に実感できるようにしていきたい。

(2) 重点目標への取組と自己評価

令和3年度において、特に重点的に取り組むこととして、いじめや不登校を減らしていくことと、どの児童も基礎的な学力を身に付けられるようにすることとした。

① いじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決

全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、いじめ防止についての数値は東京都の平均より少し良く、全国平均とはほぼ同じであった。また、友達と一緒に活動することに対する喜びを感じている児童や学校生活に喜びを感じている児童の割合も、東京都や全国平均よりも高かった。

しかし、年間13日以上欠席している児童数は昨年度から減少していない。特に低年齢化の傾向にあり、更に早期発見、早期対応ができるようにしていきたい。

② 基礎的な学力の定着

全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語と算数共に東京都の平均と同じで全国平均を上回った。また、いずれの教科も無答率が全国平均を大きく下回り、粘り強く問題に取り組むことができる傾向にあった。また、児童質問紙調査において、主体的・対話的に学習に取り組む意識や探究的な学習に対する意識が高かった。今後も主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりに取り組みたい。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 自分のことも相手のことも大切にできる児童を育成すること

- 人権尊重の精神を基調として、児童の良い行動や発言、作品等を分かりやすく賞賛する。そのことを学級全体で共有したり保護者に伝えたりして、価値付ける。
- 学習や行事、当番や係などの活動の振り返りを大切にし、自己評価・相互評価を通して自他の良さに気付いたり認めたりできるようにする。
- 支援部に所属する教員の数を増やし、特別支援と不登校支援を充実させる。
- 学年会で休みや遅刻が1月に2日以上ある児童については情報交換し、支援部や管理職と情報を共有して、素早く対応する。
- 児童面接を年間3回行い、児童に寄り添った支援ができるようにする。

(2) 学ぶことに喜びを感じられる児童を育成すること

- 児童のつぶやきから学習問題を設定したり児童の予想や考えを分類・整理しながら学習計画を立てたりするなど、児童主体の授業スタイルを確立する。
- 知識や技能の定着をねらう時間、思考力・判断力・表現力等の育成をねらう時間等、その時間のねらいを明確に設定した授業を展開する。
- 10分間の個人解決の時間に、教員は最低教室を2周して個別指導を徹底し、指導と評価の一体化を目指す。
- タブレット端末を適切な場面で有効活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。
- 教科担任制への移行を見据え、各学年もしくは学年を越えて交換授業を行い、児童の良さを多面的に見て評価する。
- ユニバーサルデザインの意識をもち、全ての児童が学習しやすい環境を整える。

(3) 自治のできる児童を育成すること

- 目を見て挨拶をすることを意識して指導・評価し、昨年度から自然発生的に生まれた挨拶運動を継続させ、その輪を広げて気持ちの良い挨拶が溢れる学校にする。
- 学習や行事等のあとしまつを含めた振り返り、清掃時間の振り返りを通して、自治の気持ちを醸成する。
- 廊下や階段、ピロティ等の歩行を徹底し、お互いが安全に生活できるようにする。
- 暖かい言葉をかけあうことを中心に、相手意識をもって行動できるようにする。